

付録A 気象データの作成方法

A.1 はじめに

本分析では、任意の地点座標（緯度・経度）における毎時の気象データを作成した上で、日積算値や日平均値の算出を行っている。

本付録では、任意の地点座標（緯度・経度）における毎時の気象データの作成方法を示す。

A.2 気象データ

気象データの作成には、国立研究開発法人 建築研究所が公開している、設計用気象データ作成ツール「ArcClimate」¹⁰⁾ とそのサブツール「grib2-to-csv」¹¹⁾（データ形式を変換するツール）をGitHubから入手して用いた。「ArcClimate」は、メソ数値予報モデル(Meso-Scale Model: MSM)の格子点値(Grid Point Value: GPV)（以下、MSM-GPV データと記す）を基にして、標高補正や空間補間を適用することで任意の地点座標（緯度・経度）における毎時の気象データを作成することができる。本分析では、MSM-GPV データは、京都大学生存圏研究所が公開している「生存圏データベース」から取得した¹³⁾。また、地点座標には、家庭 CO₂ 統計²⁾ の調査票情報から得られる「自治体名」に基づいて市区町村役場の緯度・経度を用いた。